

もっかん きぞく やくにん しら  
**「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう**

すみ  
 墨で書かれた木の切れはしのことを「木簡」といいます。奈良時代のころまでは、紙  
 きちょうひん  
 は貴重品でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品として使われており、私た  
 だいようひん  
 ちとうじ  
 ちに当時のようすを伝えてくれています。

- (1) さだいじん (現在の総理大臣にあたる地位) だったながやおうの家の  
 あとから発掘された「木簡」から、長屋王が食べていたものを  
 調べてみましょう。

- (2) 右の「木簡」は平城京「右京」に暮らしていた高屋連家麻呂  
 という下級役人（「少初位下」というのは役人の中で最も下の  
 位です）の6年間の働きぶりについて書かれた記録です。

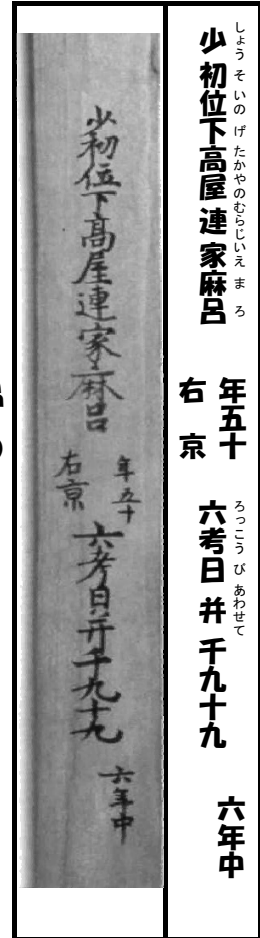
◇この「木簡」を見つけましたか？ ( はい ・ いいえ )

◇家麻呂は何歳ですか？ \_\_\_\_\_ 歳

◇家麻呂は6年間で何日働きましたか？ \_\_\_\_\_ 日

◇家麻呂は1年平均で何日働きましたか？ \_\_\_\_\_ 日

◇家麻呂の仕事ぶりはどのように評価されていますか？



- (3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や「木簡」に記録をつけていた  
 ことから、「刀筆の吏」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったと思いますか？